

氏 名：岡本 典子
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 218 号
学位授与年月日：2022 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 吉田 俊子（聖路加国際大学教授）
副査 萱間 真美（聖路加国際大学教授）
副査 木下 康仁（聖路加国際大学特命教授）
副査 大川 貴子（福島県立医科大学准教授）

論 文 題 目： 看護職がボランティアとして長期に 被災地に通い続ける体験～自分の力と向き合うプロセスに焦点を当てて～

博士論文審査結果

本研究は、ボランティアとして長期に災害支援に携わる看護師が自分の力と向き合うプロセスについて記述し理論化することを目的とし、1 年以上の災害支援ボランティア経験を持つ 8 名を対象に、修正版グランデット・セオリー・アプローチを用いて体験の分析を行った質的研究である。半構造化インタビューをもとに長期間被災地に通い続ける看護師の経験の分析を行い、災害支援に対する看護職がどのように自分の力と向き合い、支援する支援者がどのように支援されていくのか、内面的プロセスを明らかにしている。

審査の過程では、これまで十分明らかにされてこなかった研究テーマであり、言語化が困難とされる内容が抽出されていることから、今後、災害支援に携わる看護師や医療者への本研究の成果の活用が期待されることが評価された。

審査委員からは次の点について指摘がなされ、修正が求められた。

1. 論文全体について

結果から考察、結論への一貫性が保たれていないことが指摘された。特に本研究は災害支援に携わるプロセスについて記述し理論化することを目的としているが、プロセスに対する考察が示されておらず、結果を踏まえて、考察、結論と論旨の一貫性があるように修正を求めた。

2. 文献検討について

本研究はボランティアについて扱っているが、災害支援に特化した文献検討となっていたことから、考察への深みを持たせるためにボランティアの心理状況についての文献検討を追加することが指摘された。

3.結果 分析について

グランデット・セオリー・アプローチを用いての分析を行っているが、結果の記述に厚みを持たせるために、インタビューで研究参加者が語った体験がどのような意味を持っているのか、研究者の解釈、概念名とカテゴリー名の見直しが必要であることが指摘された。

4.結果図について

内面の変化がより現れるよう、さらに時間的経過は一方ではなく、行きつ戻りつを繰り返す状況にあると考えられることから、結果図の修正が必要であることが指摘された。

これらの指摘に対し、再提出された論文において、適切な修正がなされたことを審査委員全員が確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。